

令和5年度 国体少年女子 活動報告
燃ゆる感動かごしま国体を振り返って

報告者 少年女子監督 一木 太郎

【活動報告】

・後期リーグ

- 4節 12/4 VS 愛知(●1-4) 豊田氏運動公園球技場
- 5節 2/12 VS 三重(○3-0) ゆめりあ球技場
- 6節 2/19 VS 岐阜(○5-1) ゆめりあ球技場

・前期リーグ

- 1節 6/11 VS 愛知(○3-1) 竜洋スポーツ公園
- 2節 6/25 VS 三重(○4-1) 三重交通スポーツ公園
- 3節 7/2 VS 岐阜(○4-0) 竜洋スポーツ公園

・練習・試合

- 3/5 ヤングサッカーフェスティバル VS 東京都 U16 選抜 (○4-1)
- 3/22~24 静岡スプリングユースフェスティバル(SSYF) 時の栖 うさぎ島
- 5/18 練習会 常葉橋高校 G
- 6/8 練習会 常葉橋高校 G
- 6/22 練習会 常葉橋高校 G
- 7/20 練習会 常葉橋高校 G
- 8/17 SBS CUP VS 山梨県 U16 選抜(5-0)
- 9/14 練習会 常葉橋高校 G VS 順心高校
- 9/28 練習会 常葉橋高校 G VS バックアップメンバー

・ミニ国

- 8/10・11 事前合宿 竜洋スポーツ公園
- 8/12 VS 愛知県(○2-0) 本大会出場決定

・本国体

- 10/9・10 事前合宿 順心高校・藤枝市民グラウンド
- 10/11 移動日
- 10/12 前日練習
- 10/13 1回戦 VS 福岡県選抜 (○0-0 PK5-4)
- 10/14 2回戦 VS 宮崎県選抜 (○5-2)
- 10/15 準決勝 VS 鹿児島県選抜(●2-2 PK3-4)
- 10/16 3位決定戦 VS 東京都選抜 (○1-0) 3位
- 10/17 移動日 静岡解散

【選手選考について】

2022年度

- ・年度内は県内の中2・3年生を観ることをメインに行った。
- ・早生まれの選手(高1)の把握を並行して行った。
- ・県トレセン視察を通して、U14・15の選手を把握。
- ・後期リーグ 12月～2月 実践を通しての選手把握
- ・ヤングサッカー3月5日 現時点での選抜選手18名を選考
- ・SSYF 3/22～25 今までに把握しきれなかった選手を中心に20名を選考

2023年度

- ・練習会開始。4月1回、5月1回
アカデミー6名(県外出身選手)、順心6名(県外出身選手)を新たに参加。
- ・前期リーグスタート
1節 6/8 事前練習 → 6/11 VS 愛知県
2節 6/22 事前練習 → 6/25 VS 三重県
3節 7/3 VS 岐阜県
それぞれ、本メンバー18名+バックアップメンバー7名=25名を選考し、事前練習は25名、リーグ戦へは18名で参加した。

【招集選手所属派遣チーム】

・U14、15

藤枝順心 JY、常葉橘中、東海大翔洋中、静岡 SSU 浜松泉 FC LIBERDADE 静岡、T-Dream FC、アスルクラロ沼津、清水 FC 女子、SATO なでしこ、静岡エル FC、FC 時の栖、JFA アカデミー

・U18

藤枝順心高校、常葉大橘高校、東海大静岡翔洋高校、磐田東高校

- ・高1:11名、中3:25名、中2:27名、GK: 6名 計69名をベースとして、各チームからの推薦や要望を受け、活動に加わってもらった。

・ミニ国メンバー決定(18名)

JFA アカデミー5名、藤枝順心高6名、常葉橘高4名、磐田東高1名、FC 時の栖1名、常葉橘中1名
バックアップメンバー7名、※ 県内出身選手(8名/18名)

・本国メンバー決定(15名)

JFA アカデミー5名、藤枝順心高4名、常葉橘高3名、磐田東高1名、常葉橘中1名、FC 時の栖1名

※メンバー提出後(アカデミー選手(FW)が怪我のため、藤枝順心高(MF)と入れ替え)

※世代別日本代表経験選手(内9名)

※県内出身選手(内7名)

※次年度より、JFA アカデミーが福島へ戻るため、国体最後の選考となった。

【チーム作りについて】

静岡アイデンティティ

誇り、覚悟、責任、団結、礼節 ※JFAJapans way 参考

プレービジョン

守備、攻撃について基本的なビジョンを伝えた。(別紙参照)

監督として大切にしたこと

- ① 選手主導 選手自身が、自チームの改善点、相手の狙いに気づく → 解決策を見出す → 実践する。
※スタッフは支援
- ② プレーの質 当たり前前のプレーを当たり前前、より早く、強く、正確に行う。
- ③ 個を生かす ストロングを明確にして、互いを生かすサッカー

考慮したこと

U16という育成年代にある選手を、どう成長させていくかを考えた。

- 自分の考えを主張できる環境、他の意見を聞き入れる環境づくり。選手だけのミーティング。
- プレーを制約せず、気づきを与えること。スタッフはあくまでも支援者。
- 相手のねらいを共有する。(選手間、スタッフ間 → 選手とスタッフ の共有が大切)
- 自チームのストロングを共有する。(個を生かすための理解)
- ※相手があつてのサッカー → 勝つためにどうしたらよいかを考える。

【課題】

- ・年齢、所属チーム、サッカーの受け止め方が違う選手が集まるのが、この選抜チーム。意見や方向性がずれることもある。そこをいかに共有し、1つの方向を見出せるかに苦労した。しかし、試合を重ねるごとに、所属チームの枠を超えて互いに伝え、受け入れるという作業がスムーズになった。
- ・ビルドアップ
ビルドアップは前期リーグ、ミニ国から課題があった。メンバーが変わるとうまくビルドアップできない。GKを含め、DF・MFを中心に練習会でもイメージを与え、チャレンジしてきたが、本国でも高い位置からプレッシャーをかけてくるチームに対し、低い位置でボールを失うシーンが多かった。直接失点に結びついてしまうため、消極的なプレーをしているように感じた。
 - 逃げ場所を確保する。失い方も大切。
 - 失敗を恐れず挑戦する気持ちを大切にする。これからの課題。
 - 周りを見る、正確なパス、コントロール、正確な判断、オフザボールのサポート(関わり方)
 - 攻守の切り替え(失いそうな状況を予測できる)
- ・ゲーム状況を見極める
 - 1試合を通しての流れ(立ち上がり、点を奪いにいく、守備に重きを置く、ゲームの終わり方)
 - 相手のねらいを読む(相手の特徴、攻撃や守備の形、何をしようとしているのか?)
 - ※ 情報をもとに自チームは何をすべきかを選手間で共有できることが必要。

【成果】

・即座に実践できる能力(理解力)

→ 代表経験のある選手が多く、改善する力は非常に高く評価できる。試合を重ねることに成長し、代表経験のない選手にもいい影響を与えた。

・ストロングを生かした。

- 特にボランチの「榊」のゲームを組み立てる力、攻撃の芽を摘む守備
- 右サイド「岩田」の推進力、チャンスメイク
- キャプテン「弟子丸」の正確なキックからセットプレーでのチャンスメイク
- DF「旭田」「坪井」のヘディングの強さ(セットプレー攻撃、跳ね返す守備)
- 左サイド「望月」決定力、得点へのかかわり・・・など

【まとめ】

1年間、多くの方に協力していただき、活動させていただき感謝しております。ありがとうございました。

結果は昨年より1つ順位を落とし3位という結果と、あと一歩及びませんでした。監督の力不足を感じております。

昨年度準優勝した静岡県は相手チームにマークされていました。特に開催地である鹿児島県は細部にわたり静岡を分析していました。それでも、選手が中心となり、そのプレッシャーを跳ね返す戦いをしてくれたと思います。選手・スタッフ一同、優勝する覚悟で臨みまし、その力が選手にはあると、今でも思っています。この悔しさをバネに今後の活動に活かしていきたいと思ひます。

選手選考では、多くの世代別代表経験のある選手をはじめ、チームの中心な選手を派遣していただきました。ありがとうございました。このような機会を与えていただいた以上、少しでも選手の成長につなげられるように、スタッフで協力して、活動してきました。育成年代にある選手に、未来を見据えてどんな力が必要になってくるのか？今身につけておきたいことは何か？など、指導者は常に考えていかなければなりません。選抜活動では、選手の強化が求められていると思ひます。国体で少年女子(U16)のカテゴリーが実施されたことを踏まえ、今後は普及・育成・強化の在り方も変わってくると思ひます。トレセンではカテゴリーの組織編成の見直し、指導者の関わりにおいても種別を超えて積極的に関りをもつことが必要になると思ひます。選手がより成長できる環境を、共に創っていくことができるようにしていきたいと思ひています。

今回、選抜活動に関わってくれた選手が、今後の静岡の女子サッカーを背負い中心となっていってほしいと思ひますし、やがては日本の、さらには世界で活躍できる選手に成長していくことを期待しています。

1年間、大変お世話になりました。ご協力ありがとうございました。

以上